

せきね 知っ得! 通信



July

2022

社会保険労務士法人せきね事務所 せきね FP 事務所
〒947-0028 小千谷市城内 2-4-26 TEL0258-83-3048 FAX0258-83-3049
メール sekinekyrs@mountain.ocn.ne.jp ホームページ <https://www.office-sekine.com>

第142号 発行：2022年7月

青空に向かってツバメが巣立って行きました。



問題のある従業員への文書による指導のポイント

従業員に対して注意指導するのに最も簡単なのは「口頭での注意」ですね。気づいたその場で行うため、何に対しての注意なのかわかりやすく手間もかからないため一般的に用いられる方法です。通常はこの「口頭での注意」で改善に向かうもの…しかし、中には何回「口頭での注意」を重ねても改善せず、同じ失敗を繰り返し、業務に支障をきたしてしまうようなケースもあります。そのような場合、「文書による指導」という選択肢もありますので、今回そのポイントをご紹介します。

文字にすることのメリット

何度も同じことを注意しても治らない…ということは「口頭での注意」に慣れてしまい、指導効果が薄れている可能性があります。また、注意する方も「も～何回も言わせるな!」と頭に来て、本来言うべきでないことを言ってしまい、「パワハラ」と指摘されてしまうこともあるかもしれません。



その点、「文書での指導」であれば「会社が何を問題視しているか」を感情的にならず正確に伝えることができます。そして、何よりのメリットは、会社が指導を繰り返したという客観的な証拠を残せることです。数え切れないくらい口頭で注意したとしても、その証拠となる指導の記録は残りません。最悪のケース「解雇」せざるを得ない場合や紛争となった場合に「指導した証拠」はとても重要です。

文字にすることでのデメリット

口頭で言われる注意と文書での指導は、受け取る側の重みが違います。きちんと口頭での指導を行わず、また改善を妨げている背景も聞かないまま、いきなり呼び出されて指導文書を渡されたら、相手はどう思うでしょう? 「懲戒処分」を行うための証拠づくりではないか? と邪推され、反発や警戒を強めるかもしれません。何回も同じことを注意・面談指導するのは難儀なことですが、それらを繰り返してからの文書指導であるべきと考えます。



文書作成のポイント① 指導目的でシンプルに

これまで指導してきた苦勞の数々や文書での指導に至った経緯、会社が求める姿・行動など、書き連ねたくなる気持ちもわかりますが、長い文章はお勧めしません。あくまで「改善指導」を目的に、多くても2~3点の箇条書きにして会社の本気度をシンプルに伝えましょう。また「いつのこと?」などという印象を持たれないよう、改善しない問題行動や同じ失敗の出現の後、速やかに交付して面談も行いましょう。 次ページへ続く

文書作成のポイント② 作成名義・タイトル

業務上の注意・指導は通常は上司が行うため、課長名や部長名でも問題ありませんが、基本的には代表取締役名にしておくことをお勧めします。後に、懲戒処分を行う場合の主体となりますし、何より文書の重みが違います。



また、最初の指導文書のタイトルは「注意・指導書」「改善要望書」として、それでも改善しない場合に「再 注意・指導書」などと進めていきましょう。タイトルよりも内容が大事ですが、いきなり「警告書」「改善勧告書」などとはしない方がよいと考えています。これらの文書での指導を重ねてもなお指示に従わない場合に、就業規則上の「譴責」として始末書を取るという順序で・・・法律上の決まりはありませんが、ステップバイステップをお勧めします。



文書作成のポイント③ 受け取り署名欄

文書の末尾に「以上の内容について指導を受け、指導内容について異議ありません」とか「指導内容について反省し改善に努めます」などと書かれた受け取り署名欄を見かけることがあります。

異議ナシや反省の気持ちは、本人が自ら発して初めて意味があるのではないのでしょうか？また、このような文言が最初から印刷されていると、反発心や警戒感を招き、署名欄へのサインを拒否される可能性があると思います。



専門家の中には「正しい指導内容であれば受け取り署名欄など不要」という意見もありますが、私は「指導した証拠」としての役割もあることから受け取り署名欄はあった方がよいと考えています。その際、「本書面を確かに受け取りました」という文言を付すだけでも十分でしょう。

残念な指導文書の例

指導文書は、会社が思っているよりも従業員は重く受けとめるものです。例えば、下記のような残念な結果とならないように注意しましょう。



<例 1> 新入社員に指導文書を交付して、やる気を削ぐ

入社間もない従業員は、仕事にも慣れておらず十分な指導も受けていない可能性があり「きちんとした教育・指導もないのに」と逆効果となることも。まずは、口頭での具体的な指導に注力し、どうしても文書で指導したい場合は「担当業務について」とか「これまでを振りかえって」など、タイトルや表現を工夫しましょう。

<例 2> 事実関係を確認しないままの文書

文書で指導する前には必ず当事者からの意見を聞きましょう。指導する上司からの一方的な言い分から会社が指導文書を出してしまうと「そもそも指導の前提が事実と異なる」と反論されてしまう可能性があります。まずは、事実関係を明らかにして、本人の責任の度合いや反省の様子などから総合的に判断して文書での指導をすべきか決めましょう。

<例 3> 指導内容が薄く懲戒処分目的が見え見え

「貴殿の行為は、就業規則第〇条、第〇条、第〇条第〇項、違反であり…」などが強調され、肝心の指導内容が具体的でない文書は「証拠目的」であることを見透かされます。「形を変えた退職の強要だ」などと言われないように気をつけましょう。



参考になれば幸いです！

令和3年の労働災害発生状況 ～労災死亡者数、休業4日以上の死傷者数ともに増加～



労働災害を減少させるために国や事業者、労働者等が重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第13次労働災害防止計画」（以下「13次防」という）（平成30年度～令和4年度）では、29年比で「死亡者数を15%以上」「死傷者数を5%以上」減少させることを目標にしています。

◆ 死亡者数4年ぶり増加、休業4日以上の死傷者数は平成10年以降で最多

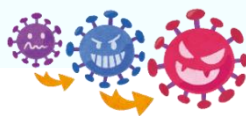
令和3年1月から12月までの労働災害による死亡者数は867人。

4年ぶりに増加（前年比8.1%増、平成29年比11.3%減）。

休業4日以上の死傷者数（以下「死傷者数」という）は149,918人。

平成10年以降で最多（前年比14.3%増、29年比24.5%増）。

新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害での死亡者数は89人（前年比71人・394.4%増）、死傷者数は19,332人（前年比13,291人・220.0%増）と、前年に比べ大きく増加しました。



◆ 第13次労働災害防止計画の重点業種の平成29年比および対前年比は、 死亡者数は減少、死傷者数は増加



死亡者数は、平成30年から令和2年までの3年間では13次防の目標達成が可能なペースでの減少となっていたものが、一転して13次防の目標を達成できませんでした。

- 建設業 288人（前年比30人・11.6%増、29年比35人・10.8%減）、
- 製造業 137人（同1人・0.7%増、同23人・14.4%減）、
- 林業 30人（同6人・16.7%減、同10人・25.0%減）となりました。



死傷者数においては、

- 社会福祉施設 18,421人（前年比5,154人・38.8%増、29年比9,683人・110.8%増）、
- 小売業 16,860人（同1,519人・9.9%増、同2,979人・21.5%増）、
- 陸上貨物運送事業 16,732人（同917人・5.8%増、同2,026人・13.8%増）、
- 飲食店 5,095人（同142人・2.9%増、同374人7.9%増）と前年比で増加しました。



「気になる！」を勝手に情報発信コーナー

書籍

母性

湊 かなえ

女子高生の自殺に「愛能う限り育ててきたのに」という母。

母は自分の母親から褒められること・愛されることを喜びとして人生を送ってきた。結婚も出産も、喜ぶ母親のためにした。一方、娘は、祖母からの無償の愛を感じつつも母からの愛情をずっと求め続けていたが得られずにいた。姑から辛くあたられる母を自分が守ろうと娘は奮闘するが、母から「どうしてあんなに気性の激しい子に育ってしまったのか」と嘆かれてしまう。

ある日、娘は祖母が死んだ本当の原因を知り…。

世の中には我が子への虐待のニュースが絶えませんから、子どもを産めば、自動的に「母性」が備わるワケではないのでしょうか。著者は「イヤミス（読後、嫌な気分になるミステリー）の女王」と呼ばれていますが、この作品、秋にドラマ化予定だそうです。

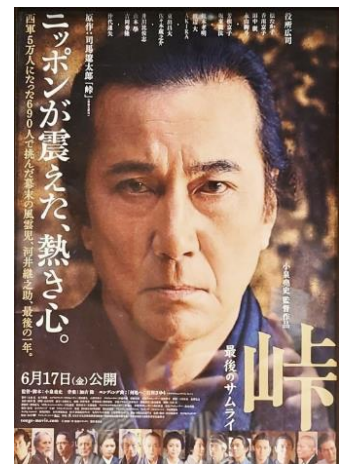


映画

峠 最後のサムライ

原作本のファンとして、ロケ地が地元であることも楽しみに劇場に向かいました。感想は、結論からいうと少し残念でした。継之介が、陽明学や西洋人との交流の中で誰よりも新しい時代を見据えていたのに、武士として戦いに向かわざるを得ない自己矛盾の描かれ方が薄いように感じました。

本を読まずに映画を見た人は、たった1日の交渉決裂で、何万もの民を巻き込むサムライに心が震えるかな？と心配になりました。



ツバメのヒナと今月のさぶろく (5歳10ヵ月)

事務所の玄関前照明にツバメが巣を作り、ヒナが生まれました。

餌やりや成長の様子に癒されたり、カラスの攻撃を心配したり、ヒナたちの重みに巣が壊れて心を痛めたり…ドキドキの日々でした。

6/28 ヒナ5羽誕生



巣の近くで過ごし、7/12 巣立ち



7/8 巣の一部が崩落



7/5 すくすく成長



ツバメを見守る(狙う)さぶろくさん